



園芸課
鈴木 琢磨

次年度の収量UPのための 土壌診断！



J Aへ穀類や青果物を出荷している方は無償で土壌診断をうけることができます。診断結果や改善方法も知ることが出来ます。次年度の収量UPに向けて是非ご活用ください。

■土壌診断のメリット

1. 土壌の性格を作付け前に把握できる。

土壌の分析を行うことで土の性格（土の癖、基礎体力、排水の良し悪し）がある程度判断できます。

2. 数値で論理的な判断ができる

連作によって同じ作物を作り続けていると、同じ施肥量では土の栄養が偏ってしまいます。

豊作の年もあれば、日照不足、低温・高温、病害などで収獲量が異なることがあります。また、肥料は土から流出したり、微生物や雑草などに使われたりした後も、ある程度は土中に残ります。

それにもかかわらず同じ施肥量を続けていると、養分の偏りが生じてきます。土壌に残っているこの養分量を把握することで、次期作の肥料投入量が分かり、今まで経験や勘に頼るしかなかった土壌バランスの修正を、的確に行えるようになります。

3. コストダウン、収益増加に繋がる

毎年同じ量の資材を投入していたときと比べ、結果的に肥料代の節約につながるだけでなく、土のバランスが良好な状態を保てるため、病害にもかかりにくくなります。

土壌診断をベースに、化学肥料や農薬に頼る栽培から有機的な栽培へと移行していくことで、善玉微生物が増え、肥沃な土づくりが可能になり、作物の品質や収獲量の向上にもつながります。

■土壌診断の流れ

- ① 土壌採取（10～11月）
- ② 土壌分析（J A分析センター）
- ③ 分析結果配布（3月頃）

【採取方法】

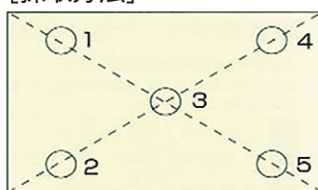


図1：圃場の採土位置

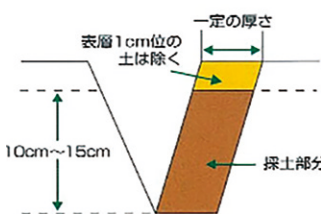


図2：土壌の採土方法

【図1】のように1圃場を対角線に区切り5箇所より【図2】に示すように表土を1cm位除いた、深さ10～15cmの作土を上下で厚さが変わらないように移植ヘラ等で採取します。
1箇所から生土を500gずつ採取し、5箇所分をよく混合して300～500gにして乾燥・粉碎します。

■おすすめJ A肥料の紹介

○低コスト肥料

（基肥／追肥）エコエコ500（15～10～10）
高度化成オール14（14～14～14）

○緩効性肥料（基肥）

・B B有機入り野菜（13～10～12）
・ニースーパーコン（有機質、肥料分、微量要素）

○完熟発酵堆肥

■次年度への圃場管理について（チェックリスト）

- 残渣（茎葉など）は圃場外へ持ち出し、処分しましょう。
- 土壌中の根などは、丁寧に耕起しすぎ込み、整地しましょう。
- 春の作業省力を図るため、完熟堆肥など散布しておきましょう。（散布後は耕起）
- 生育期間中、雑草が多かった場合は、翌春の抑制のため、ラウンドアップマックスロードを散布しましょう。
- 雪解け水が抜けにくい箇所は、溝切り等を実施しましょう。
- 野ねずみ被害がある場合は、殺鼠剤や石灰系の資材を散布しましょう。
- 水田転作初年や品目転換される圃場は、土壌診断をおこないましょう。
- 施設については、冬期（積雪）に備え、補強や消雪設備、機械の点検をおこないましょう。